

おおやまと

大倭出版局・大倭紫陽花邑

平成14年
1月号

毎月23日発行
通巻377号

(題字 矢追日聖)

★発行日 平成14年1月23日
★発行所 大倭出版局
〒631-0042 奈良市大倭町1の12
☎(0742)44-0015
★印刷 大倭印刷盤
★定価 1部 250円
年間購読料3,000円(送料共)
★振替口座 01050-6-67002
大倭出版局
URL <http://www.ohyamato.jp>



大倭大本宮拝殿正面入口の額 青山法義さん撮影 (文・3頁)

昭和41年2月23日『すさのお』第2号より再録

自然神と人格神 ～ カミさん談義 ～

法主 矢追 日聖

信仰の立場から

大倭(おおやまと)と、そしてまつろいの中心である「太加天腹大神」(たかまのはらおおかみ)について、この名称がもつ意味は前回の話(『すさのお』第1号/平成11年『おおやまと』1月号で再録)で大体お分りのことと思います。

神経の細かい学者達は、この説明について、とやかく批評されるかもしれませんが、私は言語学の講義をしているのでありませんから信人の皆さんは、信仰の立場から異議をはさまず素直に受入れてほしい。

こうした話の中に、神さんや、大神さんという言葉が何回も出てきますが、分かったようで分からないのが神さんという言葉です。大倭で使っている「神」さんとは一体どんなものであるか皆さんは考えたことがありますか。

今回は神さんについてお話しすることに致します。

前回の、太加天腹大神について説明した中に、「自然神」(しぜんしん)という名称を用いましたが、これは「人格神」(じんかくしん)と区別するためです。

この分け方は便宜上のもので、天地自然と人間との関係を説明するのに都合がよいからです。

人格神というのは、この地球上で、人間に生まれ、その人が死んだあと、その人に宿っていた霊魂だけが残ります、その霊魂のことを「人格神」と言うことに

しています。勿論、人間に宿るまでの霊は「自然神」でありますが、一人の身体に宿ってしまったら人格神となるわけです。

もし大昔、大國主（おおくにぬし）さんや素盞鳴（すさのお）さんが、實在の人間であったとすれば、その霊魂は人格神ということになります。出雲大社は大國主命という、かつては在りし人の霊魂を祀っているお宮さんと言えるのです。

もともと人間が住まっていた家屋の形を造ってその家の中で霊魂だけ棲んでもらう心から、人格神を祀る場合、今の神社に見るような形ができてきたのです。

千木（ちぎ）をつけた天地根元宮造りといった形の素朴なお社は、かつて私達の先祖さんがお住まいになった家屋とかわりありません。

社（やしろ）を備えて祀ってある全国の神社は、すべて人格神を祀っていると見てよろしい。人格神には、必ず血のつながった子孫があります。

すべてのものはひとつ

この種の神社は子孫からみれば「氏神」（うじがみ）さんになります。

それに対して子孫の方を「氏子」（うじこ）と言っています。つまり氏神と氏子は血で結ばれた同族、同氏であるのが原則となっています。

現在の皆さんも、身近な先祖から、段々と深くたどってゆけば、必ず何処かの氏神さんに達する筈です。

藤原一門の氏神さんは、もとの河内枚岡明神さん、後の奈良春日明神ですし、平家一門の氏神は、桓武天皇であり、源家は清和天皇となっています。

考えてみれば、後の世の人が氏神さんと称して崇敬しているその氏神さんにも血のつながった先

祖さんがある筈です。煎じつめれば私達の大先祖さんは全部同じ人から出ていることが分かります。理屈の上では簡単に分かりませんが、それを実感でとらえることは中々難かしいことです。でもこれは、絶対間違っていないのですから、自分の心によく聞かせて、その心になるよう努めてほしい。

早い話が、血の分けた親子や兄弟ですら、仲よく行けない家庭が沢山あります。こういう人達は先祖さんの心も分ならず、自分の幸福もつかめない哀れな人達です。いや、家庭だけの不幸でなく、社会の調和を乱す癌にもなるものです。

「はらから」は根本原理

「はらから」（同胞）という倭言葉は、我々人間達が幸福になる根本原理をたくみに言いあらわしています。

私も、隣りに住む人も、皆、同じ大先祖（氏神）の「腹から」生まれ出た者ばかりで、あかの他人ではないということを含めているのです。

「はらから」という信仰心や、氏神、氏子といった人間関係からわいてきた心の結びの中からは、我が国にあつては、古代から万有同根という悟り、こうしたものがおのずから人の魂の奥深くひそかに備わっていたもので、教えられ修得したものはなかったのです。

霊的感応のある人であれば、自然に分かるものです。知識から入ったものは、もろく浅いもので、骨髄まではしみ込むものではありません。

明治天皇さまの御製に、

よもの海みな

はらからと思ふ世に

など波風の

たちさわぐらむ

と、明治三十七年日露戦争が勃発した当時のお歎きの御心境を詠まれたのでありますが、思わず頭が下がる深いものを感じます。

この世は本物を写した世界

ふつうに「神さん」と言えば、皆さんは先ず、人間では分からないような何ごとでも全部見通して知っているような、そして到底人間の及ばないような力も持っている絶対的なものだと思っているでしょう。だからこそ欲の深い者達は、かなわぬ時の神だのみと言って、手を合わせて神さんと思っている対象物にすがるようになる。勿論これは、狂気の沙汰ですが、本質的な人間の弱さを現わしているのだから仕方がないものです。結果は自己慰安となって自己を精神的に救うことにもなりますので、まあまあいいでしょう。

「カミ」という倭言葉をさぐってみよう。色々な意味があるので。我国ではその言葉を上手に適宜に使い分けしてきたのです。

漢字を使うようになってから、「カミ」を加美、これは音そのままですから意味がありませんが、「神」「上」という字によってその意味をあらわしています。

普通は同義に使う場合が多かったようです。「カミ」は、高い所、高い位置（上）という意味や、人間の力では及ばない神秘的なものに対する総称として使われたものようです。

例えば、「雷」すなわちカミナリですが、高い所で鳴るものだから「上鳴」にもなるし、その反面、いくら恐ろしくても人間の力で無くするわけにはゆかないし、万一、落ちてくれば、家は焼かれたり人命もとられる恐ろしいもの、線香を立て

て蚊帳の中で耳をつめて、一刻も早く御退散をとな念ずるような雷さんには、「神鳴」という字があてはまるようです。先祖に対して、「氏子」或いは「氏神」どちらでも用いられます。

カミは、そういうものを言うのであると一応おぼえておいて次に、「ウツシヨ」（現世）や「ウツシミ」（現身）というやっかいな言葉があります。これは我等が住んでいるこの世を中心として用いる言葉です。

何処かに本物（実体）があつて、この世はその本物を写した世界であるというのが即ち写世であり現世ということになります。

ウツシミの場合も同じことで、肉体をもつ人間も、写されてできているもの、即ち実体から見ればその影のようなものです。

この本物のある所を太加天腹（霊界、即ち現象界以外の所）とすれば、現象界のすべては、太加天腹から天降った部分に変化し出現したことになるので、太加天腹はカミの世界と言い、その中にある総てはカミさんということになります。

カミさんもいろいろ

一がいに「カミさん」と言っても、大小紅白、善悪正邪それは幾種類ものがあります。カカ天下、夫を尻にひいている妻を「おカミさん」と称してなだめるようなのも、カミさんという言葉を使っているから面白いものだ。頭のテッペンにある毛のことを、「カミの毛」というのも同じこと。すっかりカミさん放談になりましたが、これらは大倭でいう「カミ」という言葉だけの説明であることを了解してほしい。

私達の身体はウツシミであります、その本体は宇宙に遍満している自然神（根本霊）の中にあ

りますから、私達の身体（写身）には小さい姿をもつ自然神（人格神になる）が、おのずから鎮まっています。

この本体のことを俗に「心」とか「心霊」とか言います。こう考えてくると、身体は「カミ」（心霊）を鎮め祀るお宮になります。

この意味のお宮（肉体）も永もちするよう、又、鎮まっているカミさんも共に神人一体の形をもつて向上するように努めるのが、人生の一番大事なことになる。

あととは次回にまた、話します。

（昭和四一・二・一六 日聖記）

表紙写真について 杉本順一

一頁表紙写真にあるように拝殿入口鴨居の上にある大きな額がかかげられています。

読みなれない漢字と記号のような古代文字です。



漢字は、「戸穂加身 恵見田芽」と書いて「トホカミ エミタメ」と読みます。

古代文字は表紙写真右から「ナモタカマノハラ」と読みます。

法主様がこの額をつくるために下書きされたメモがありまし

たのでそれをこの頁にのせました。額の文字は法主様が、漢字は筆で、古代文字は、例えばやわらかな粘土板にハラでけずる様な方法で書いたものらしく、それを真似るために厚紙を筒状にしてから平たくして書いておられました。

この古代文字は法主様のご生母、日妙師が霊視して霊界人から教えられたのだということ。額に彫刻されたのは京都府八幡市男山の川竹四郎氏です。

法主様がこの額をかかげられた意味は、拝殿に入るためにこの額の下を通ることで、その人が知らずとも「トホカミ エミタメ ナモタカマノハラ」と称えることになるからだそうです。それは頭幽一つとなって加美祭りをする時に発する言葉だからです。

平成14年 大倭会文化行事の計画

今年の文化行事の予定をお知らせします。みなさんお誘い合わせの上多数ご参加下さい。場所・時間・交通等の詳細については各前月までの『おおやまと』でお知らせします。

- 3月17日(日) 新春の大阪歴史博物館と難波京 (大阪馬場町)
- 4月21日(日) 長曾根日子命を訪ねて 鶏の峯 (奈良)
- 5月19日(日) シャクナゲと玉置神社 (奈良十津川村) <マイクロバス利用>
- 6月16日(日) 奈良県立万葉文化館 (奈良明日香村)
- 10月27日(日)~28日(月) 秋の旅行—身延山— (山梨県)

お問い合わせ 世話人 湯浅芳郎 0742-48-3389

新年特集

私の暮らしに生きる法主様のことば

●大阪市阿倍野区 木戸口 和美

ご指名賜わりましてありがとうございます。これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。○毎日の暮らしをきちんとしていない者に手を合わされても、あっちにいるご先祖さまは、恥ずかしい思いするで……。

○神さんや仏さんに、おいしいもの、珍しいもの、お供えしたら、そら喜びはるで。そやけどなあ、改めてお供え物でけんかてええのや。毎食事の時に「ご先祖さまも一緒にどうぞ」っていう気持が大事なんや。

○神社仏閣でお賽銭（投げ銭）は失礼や、神さんも仏さんも河原乞食とちがうんやから。うちの大家には、お賽銭箱あれへんやろ。もしどうしもの時は、ちゃんとのし袋にでも入れて、静かに納めるこつちやなあ。

●大阪市生野区 大東 以曾

ご存命の頃何度も何度もお聞きしながら、暮らしに生きるという程身に付いていないと言っているのが実感です。しかし、現世・現身という言葉の通り、実体がありそれを写して現世。「顕幽不二」と教えられながら、幽の世界を忘れがちで「はっ」と反省することです。

また「去るを追わず、来るを拒まず」。このお言葉は身に付いているように思っています。「加美のまにまに」

この言葉もむつつかしいと思いますが、70才を過ぎ

■アンケートにお答え頂きました 先着順

きてやつと素直に従えるようになったかと思いません。

●名古屋市守山区 村木 哲

「仲よくな」……
「ものも、心も、豊かにな」……

僕は、老年期の法主サンしか知らない（若い時を知らないのだけど……）けど、人間的な、ほんとに人間的（愛の深い、深い洞察力、そしてちよびり助手そうで……自然で）。僕は、尊敬する奈良のじいちゃんとも今も呼んで、色々教えて貰ってます。僕の尊敬する奈良のじいちゃん、ありがとう。

●大阪府泉南市 高木 義雄

「地球は、宇宙に浮かぶ星屑の一つ。人間は、そこにいる虫ケラの一つ」というお言葉を若い頃に拝聴。以来、常に意識している。

昭和三十五年、大学二年の頃にFIWCに、その後、大倭の施設キャンプ、交流の家の活動に。ありがたくも法主様、紫陽花邑に接するに至った。

外国は遊びに行くもの、仕事では行きたくないと思っていたのに、三十代の中頃にモントリオール、四十代の終わりにニューヨークへ仕事のため駐在。飛行機の窓から見える地球は、変化に富む所もあったが単調そのものであった。まさに、たかが星屑であった。体格に勝り英語を流暢にあやつる毛唐には、初めこそ気後れしたものの、強気、陽気、恥知らずで対抗。同じ虫ケラだった。

不覚ながら六十の直前に喉頭ガンの大手術を受けた。一週間は全身固定の絶対安静、ひたすら星屑と虫ケラを想って過ごした。

環境破壊を騒いでも、ヒコキが超高層ビルに突入しても、戦争が始まっても、星屑と虫ケラをめぐる諸々は、今も昔も形を変えただけ。それでもとかく気にかかる。法主様なら「カンナガラ」と言われますか。「法主様がいつも言われるカンナガラ……」という青山日元さんのお言葉も小生には大切な一つです。

●大阪府東大阪市 杉山 節子

昭和二十七年頃より大倭に御縁があり、父と叔母（父の妹）と一緒に参りさせてもらっていました。いつも優しい眼差しで法主様、鈴月おあ様に色々相談があって参りました事を、昨日の様に思い出します。

そんな時は「どんな事があっても前向きで働いていたら、きつといい事がある。希望を持っていきや」と言われ、結婚して早や四十五年が夢の様に過ぎ、色々な事が次から次へとあり無我夢中でやって来ました。その度に、法主様にお目にかかり話を聞いてもらって、又、元氣を出して帰って来たものです。今から思えば法主様、おあ様には、いやなことばかり聞かせて申し訳なかったと後悔しております。何の御恩返しもできず本当に残念です。私の命のあるかぎり大倭にお参りさせてもらい、法主様の言われた事を思い出し、日々感謝の気持ちで過ごさせてもらおうと思えます。

○先祖様、父母に感謝して、動ける間は無理しないで働きや。

○家族仲良く、何事も良いように解釈して、罪を作らない様にな。

○色々な事があっても絶対に人を恨んだらいけない。自分の身にもどるんやで。

○後ろを振り向かないで希望を持って前向きで生きるのやで。

○かんながら
かんながらが分からなくて、この年になり理解できる様になりました。今、考えてみますと、当たり前の事ができないのですね。拍手合掌

●京都府八幡市 川竹 四郎

「蝗いなきの様に仲睦まじく」

或る時法主様が、四十を過ぎると一言多うなるなあーとおっしゃった事がありました。又、私の知人で、八十になったら本音を言わしてもらおうか……と、どうも角張って聞きづらい思いをしました。

歳と共にどうしても不平、不満、愚痴がでます。夫婦といえどもお互いに妥協しあって、いつまでも法主様のおっしゃった「蝗いなきの如く仲睦まじく、生き度いと思つて居ります」。

●奈良県生駒市 安達 直美

福祉に関わる仕事をしている私にとって、大切にしていくことは、「清濁あわせ呑む」です。このことばをいつお聞きしたかは、はっきりと覚えていません。「紙には表があるから裏もある」「全てに陰と陽がある」と言うようなことも一緒に聞いたような気がします。

福祉の世界やから、やさしい気持ちばかりで全てが巧くいくというものでもなく、「いいなア」と思うことの裏側には、また醜い一面も潜んでいるし、いいことも悪いことも、あわせ持つて生きているのが「人」なんやと思うだけで、むやみに腹をたてたり、ひどく落胆したりすることが少な

くなりました。イライラしている時は、欲張って「良いこと」を相手や自分に求めている時ですね。何でも呑み込んで飄々とされていた法主様の姿を思い、「清濁あわせ呑むやなア」とつぶやくと、とりあえず立ち止まることが出来ます。日々の生き方が、ずいぶん楽になりました。

●北海道小樽市 守谷 明宏

原稿の依頼があつてずっと考えていたんだけれど、法主さんの言葉って具体的には全然思い浮かばない。一字一句間違ひなく思い出す言葉ってのは、まったくないのだけれど、何かあつて考えていると、ふと、たしかこのような事を言っていたよなあと思ひ出して、『おおよまと』や『ことむけやはす』を読み直して確認する事がある。でも読み直して確認しているのに、いつのまにか、それがどこの何と言う言葉だったか忘れてしまつていく。でも言葉が大事ではなくて、この言葉の中にある思いが大事だから、それでいいと自分勝手に納得している。

でも、せっかくだからと、読み直してみた。『ことむけやはす(一) やわらぎの黙示』の折込みチラシ(?)の中の法主さんの言葉を紹介いたします。

「信者なんか作るな、企業化するなと、そんなことは細こう(霊界人は)言うてきますよ。それが大倭のいき方になつとんのやけどね」「だいたいの大倭に来る人で、神さん有難いなんでいう人、殆どおらへんもの」。法主さん自らがこういつてい言葉、私は気に入っている。

●東京都世田谷区 得丸 久文

いつも「おおよまと」をお送りいただきありがとうございます。法主様が帰幽されなさつてから

も、編集方針が変わらないでおられること、すばらしいことだと思つて読ませていただいております。

さて、「私の暮らしに生きる法主様のことば」というテーマでひと言お寄せすべくご依頼がございましたが、私が法主様のお言葉を直に伺つたのは平成元年の東光大祭のとき一度だけであり、その後は「おおよまと」に掲載されるお話が主でした。お言葉に接した量が少ないこともあり、法主様のお言葉の中で座右の銘としているものが何かあるかと自問しましたが、とくにありません。

ただ、私は、そのときの弥栄踊りで河内音頭を踊つておられる法主様のお姿があまりに楽しそうだったので、写真に収めさせていただきました。おおよまとの浴衣を着て、首に手ぬぐいをぶら下げて、満面に笑みを浮かべて実には楽しそうに踊る輪の中に入つて踊つておられるお姿には、実に神々しくかつ親しみやすいものでした。

こんな風に気取らず気さくに普段着のまままで教祖が人々と接することが可能なのだ、と驚きました。等身大で、人々と同じ輪の中で、踊つておられるそのお姿を拝見するだけで、百万言の教義や説明より説得力がありました。紫陽花邑ついでいいところだな、と思ひました。私はこの写真をシステム手帳の真ん中に挟んでおり、ちょっと遠くに任んでいる友人をなつかしむように、ときどき拝ませさせていただいております。

この法主様のお姿は言葉を越えた次元で、「こう生きなさい」と指し示してくださつておられるように思います。「人々と和して楽しく生きなさい、今・ここを精一杯に楽しみなさい、何の憂いもないひたすら生きなさい」といったメッセージでしょうか。／(財)環日本海環境協力センター 富山市牛島新町5-5

●千葉県印西市 西川悦子
いつも『とおやまと』の編集ご苦労様です。私は1984年頃から愛読させていただいております。

このようなテーマをいただいで思い出しましたのは、平成12年の秋から『とおやまと』に連載された「みそぎ、禊会を考える」という座談会です。今、改めて読み返しても、その内容の深さに衝撃を感じます。

その中に、「当用日記の一頁に毎日きっちり欠かさんと書けただけでも、みそぎの意味が十分あるんやでと言うねん」という法主様のことがありました。それで、日記くらいなら書けるかな、と2001年1月1日から日記をつけ始めました。小学校の夏休みの宿題以来です。それから今日までなんとか一日も欠かさず続けることができています。みそぎになってるかどうかわかりませんが、書いておくと案外役に立つものなんですね。

新年も、もちろん続けるつもりです。

●大阪府吹田市 高井道代

与えられたテーマをめぐって法主様のことを思い返していますが、浮かんできるのは優しい笑顔ばかりで、生活の指針にしているという言葉はありません。言葉ではない法主様の大きな包容力が私の生き方を導いてくださったように思います。でも、そうした中で折に触れて心に浮かぶ法主様の言葉があります。結婚を迷っていたときのことです。

「馬には乗ってみよ、人には添うてみよというやろ。一度は嫁に行き、もう少しまくいかにんかったら、ここはミチの家やから帰ってきたらエ工」との法主様の言葉に後押しされるようにして結婚

しました。

こうして大倭から外の生活になりましたが、あるとき、両親と娘、私たちの五人の家族のことをグチっていると「家族仲良く暮らすのがいちばんや。娘と血がつながっていかないことも関係ない」と言われ、以後そのように心がけて暮らしてきました。

主人も娘について「自分の子供のように育ててくれたので、安心して仕事に打ち込めた」と振り返って言ってくれます。

二十数年大倭で生活し、法主様の言葉を実行に移せたことに感謝しています。

●大阪府豊中市 吉本和男

（先人の思いの一部のお役目をさせて頂くということ）

新年明けましておめでとうございます。馬年の今年は何とか弾みを付けて明るい方向へ跳躍してほしいものです。時代は世紀をまたいで新旧の台頭と崩壊をあらゆる分野で、私達を巻き込みほんろうしているかのようです。まさに新世紀の立ち上げの難行といったところでしょうか。

しかし、長い人類の歴史を振り返ればこうした時代は何度もあったことでしょう。顕幽不二、矢追日聖法主様がよく言われていましたように、私達の体を借りて霊界の人々の思いが表わされるということを改めて考えますと、このような変換点の時代こそ、先人の知恵に学ばなければならぬと思います。沈潜している時期は、知識を通して何が命にとって必要とされているか学ぶのに良い機会だとならえ精進したいものです。

大倭紫陽花邑とのご縁を頂いた同時期、あらゆる命の重なる自然農の畑にも巡り逢うことができ、その学びも十二年目となりましたが、このこ

とも自身を超え、先人の思いの一部のお役目をさせて頂いているとの自覚を持つとともに、命の輝きを一隅に少しでも灯せたらと願っている次第です。

●大阪府大東市 坂田洋美

「百七十二万年前、ここに昔から居てはったクシナダヒメさんと、大陸から渡って来やはったスサノオさんが結婚をしはって、日本人の先祖さんにならはったんです」

百七十二万年前という気の遠くなるようなはるかな昔のことなのに、なぜか私はこのことばで、遠い昔に生きていた人と自分の生命が繋がったのです。そして何ら自分と関係のないと思っていた史実が、かかわりをもって生き生きと目の前にあらわれました。

なぜか今、超古代のエネルギーのある場所へ誘われ、平和をお祈りするおまつりをさせて頂き、ナモタカマノハラとお唱えさせて頂けて、ありがたく思う日々です。

●静岡県天竜市 野沢明宏

これまでいろいろなお話を、法主様から伺ってきましたが、暮らしの中に生かしているかとなると、心もとなない限りです。普段思い出すことも無く、過ごしていると言うのが正直なところです。

たまに自らを省みるような時もあり、思い出したりもしますが。それも一瞬のこと、数刻のうちには忘れ去り、喧騒の心へと戻っております。

「日々の生活の場が、修行の場」と仰っております。これを自覚し、常時持ち続けることはなかなか為し難いことです。しかしながら逃れようの無い毎日の暮らしであるならば、忘れてはならぬお言葉と、思い至っております。

登美谷の名残

第5回

「藤之木」

矢 追 隆 義

西暦五八〇年代、仏教の伝来に依り、世の中が混乱し、時の用明天皇は仏教を受け入れるべきか、否か？を重臣に相談される。大臣蘇我稲目は「礼すべきだと進言、大連物部守屋は「退」しりぞくべしと唱え、定まらない。時たまたま用明天皇が病に罹り仏に祈らんとするも、守屋等は国神に背き他国の神を敬うべきでない」と主張し、稲目の子の馬子は「詔」なれば何人が異議あるべきと言

い、具体的な争いになり結局、守屋は馬子の軍に依り射殺される事になるのだが、これはその時の聖徳太子についての話である。
太子は用明天皇第二子「厩戸（うまやど）皇子」として、生まれながら聖智あり、この争いを見て馬子に勝利あらん事を祈念する為、鳥見川に沿い斑鳩の地より「鴉杜（とびのもり）」今の倭神宮の聖地へお詣りになる。その折、乗馬を「杜」の中の大きな「藤之木」に繋がれたことから藤之木の名称が生まれたと伝えられている。
最近法隆寺の近くで有名な「藤之木古墳」が発見された。この名称が斑鳩の地に残っていたとは、聖徳太子と何かつながりがあるように考えられるが？

大倭王十八年の新春

明けましてお芽出度うございます

法王様は日頃「大倭は霊界が半分、現界が半分や」と言っておられました。法王様も鈴月かあさんも霊界の人とされましたが、私達が生きていく上で、大切なものを「学べる場」として、大倭紫陽花邑を残して下さいました。訪ね来て学ぶのか、ここに暮して学ぶのかは人それぞれですが……。邑人達にはこの地で生かされている者としての責任があります。未筆ながらご家族皆様方の健康をお祈り申し上げます。

平成十四年 壬午歳 元旦
みずのえうま

おおやまとあじさいむら
大倭紫陽花邑
代表 矢 追 隆 義
人 一 家 麻 呂

〒631-0042

奈良市大倭町一の十二
電話〇七三二四四・〇〇一五

法主帰幽祭のご案内

日時 平成十四年二月九日（土曜日）

午後二時より

場所 大倭大本宮拝殿

現身はよくつるとも永久に

結ぶ心のかわるものかは

日 聖

幽界の法主様は大倭にご縁のあるすべての人達を見て下さっています。又、その人なりの導きをいただいていると思います。ご利益信仰ではなく、「顕幽不二 還元帰一」の心をもって生かされていればこそでしょう。

宗教法人 大倭教

お説ひ

先月号5頁の写真説明にトラブルがあり、次の説明が欠けました。「……左から5人目が杉山龍丸さん、2人目が矢部顕さん」でした。

あつたつ日記

12月11日 和泉市の河野龍子さんが来邑されました。
 12月15日 大倭神宮月次祭。福岡市のホツマツタエの研究をされておられるという藤田幸久さんが参拝されました。

大倭病院では忘年会を今年はフランス料理のLe・BENKEIで。緊張した!?

12月17日 ウクライナのキエフでチェルノブイリ原発事故被害者の支援活動を続けている竹内高明さんが帰国中で、来邑。

大倭会館の畳の表替え工事が行われました。19日まで。

12月19日 栃木県のキンちゃんこと中野英樹さん来邑、年末の邑には力強い助っ人でした。

夜、大倭の収益事業グループの年末懇親会が天平倶楽部で行われました。

12月22日 有志の方々によって拜殿・大倭会館・周辺のお掃除、門松・しめ縄と、日聖祭の準備が行われました。

12月23日 午前10時より日聖祭が行われ、生前の法主様の日聖祭での法話ビデオが映されました。午後は長曾根寮のあじさい広場で直会演芸会、夜は大倭会館で打ち上げと終日お祭りが続きました。(チョッと疲れた)

12月24日 午前10時から午後まで、大倭神宮斎庭全体の玉砂利敷き(もう力仕事!)が行われました。大倭会有志やまた大倭育ちの男性の面々に招集がかかったよう全員集合状態でした(やればできるんや!)。本当にお疲れ様でした。

12月26日 交流の家ではFIWCの年末キャンプが始まりました。玄関の床の張り替え工事・勉強会等々で30日まで。

12月27日 東京の李章根さんが来邑一泊。夜の寒い拜殿で『おおよまと』の原稿書きをして

移ってもらいました。今月号6頁で西川悦子さんが書いています「みそぎ、禊会について」の記事を以前、まとめてくれたのも彼です。

12月28日 昇ちゃんはこの日の夜行バスで出発(早朝より着替えして待機していた)。横浜の弟さん宅へ帰省しました。(1月7日朝、元気に戻る)

12月30日 年末の餅搗き神事が行われました。今年も大勢のFIWCメンバーの協力に助けられ無事終了しました。

この日明け方には強烈な雷鳴に起こされた人も多かったのですが、「心の目覚め」をうながされた? 餅搗きの頃には穏やかな天候になりました。

12月31日 拜殿で1年365日の祓い清めの太太鼓が、コンピュータをベースメーカーとして午前0時ピッタリに打ち納めら

れました。山 将晴・須川定徳・杉本朝順・吉沢弘行・中島武宣・山 奈紀佐・FIWCメンバー数人の若手が集合、今年には人口密度が高くて暖かく時間の間縫つのも早かった、とか。

1月1日 教長矢追家麻呂さんは日聖祭の時の挨拶で、法主様から「わしは奥津斎庭からお参りを始めて」と言われたと話しておられました。それで今年からは午後0時30分、まず大倭大本宮の奥津斎庭(拜殿奥)にお参りしてから法主様奥津城、そして邑内守護霊の3社をお参りし、午後2時より大倭神宮の年始祭が行われました。清々しい玉砂利でした。

1月4日 大倭病院の内科、櫻井ドクターが12月31日付で異動となり、後任として1月1日付で橋本耕二ドクターが着任されました。

1月5日 大本宮拜殿において午前11時から事始めの式典が行われました。収益事業グループ

の全社員と、各部署全ての職員代表の方々が勢揃いしました。1月6日 大倭神宮月次祭。

夜、大倭会館で大倭紫陽花邑年賀の会が開かれました。各家庭の手づくりの持ち寄りが恒例でいろいろ並べられました。

大倭安宿苑では12月21日 125名が参加して奈良パークホテルで年末懇親会が行われました。

12月16日 「年忘れ会」で家族とまた今年には退職職員を招待しました。ごちそう、ゲームと色々な演出を工夫。中でも住苑者総出演の自作ビデオ上映、これがなかなか笑える名作でした。

(須加宮寮)
 12月25日 「忘年会」。一条高校合唱部のコーラスや職員による仮装を、矢追家麻呂事務局長をお招きして楽しみました。

大倭病院 ボランティア グループ あじさいの箱

合同作品展のご案内と作品展

日時 平成14年2月28日(木) ~ 3月2日(日)

9:00から17:00(最終日は13:00まで)

場所 大倭病院 特設会場

作品申し込み 2月21日(木)まで

お問い合わせ 大倭病院 監 Tel.0742-48-1515

あじさいの箱 湯浅 Tel/Fax.0742-48-3389

1月1日 「元旦祝賀会」。

雑煮、おせち料理が準備され、園長挨拶や午年生まれの方の紹介がありお屠蘇で乾杯をしました。

(八重垣園)

1月1日 「元旦祝賀会」。

雑煮、おせち料理が準備され、園長挨拶や午年生まれの方の紹介がありお屠蘇で乾杯をしました。

(八重垣園)

1月1日 「元旦祝賀会」。

雑煮、おせち料理が準備され、園長挨拶や午年生まれの方の紹介がありお屠蘇で乾杯をしました。

(八重垣園)

あんない

*玉緒祭

2月3日(日) 午後2時より大倭大本宮拜殿にて。

玉緒祭は宇宙根本神霊と人間の本霊との結び感謝するお祭り。玉は命を、緒はひもを言う。

*月次祭(大倭神宮)

2月6日(水) 午後2時より大倭神宮にて。

*法主帰幽祭

2月9日(土) 午後2時より大倭大本宮拜殿にて。(7頁参照)

*大倭会主催第三九九回禊会

2月10日(日) 午後2時より大倭大本宮拜殿にて

*月次祭(大倭神宮)

2月15日(金) 午後2時より大倭神宮にて。

*申孝祭と月次祭(大本宮)

2月23日(土) 午後1時より大倭神宮にて申孝祭が、2時より大倭大本宮拜殿にて月次祭が行われます。

申孝祭について詳しくは、

『やわらぎの黙示』の「日本精神の源流」長曾根邑のすめらみこと」や『おおよまと』の平成元年3月号等を読みたい。

神武天皇が即位四年後、大倭

神宮のあの場所「大孝を申べ」られた故事を記念して、大倭教では報恩感謝のお祭りとして

大倭神宮には「金鶏靈時

鳥見山中聖蹟」の碑がある。